

令和6年度 学校評価シート（青梅市立第三中学校）								
		＜学校経営方針の重点＞		1 学力向上	2 健全育成（社会性）	3 豊かな心	4 特別支援教育	
項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果 教（教員アンケートによる到達度） 保（保護者アンケートによる到達度）	改善策	学校関係者評価記入欄	
							評価	コメント
1 学力の向上	主体的・対話的で、深い学びをより引き出すために、「学びの姿勢の高まる授業づくり」を目指す。	①新しい視点に立った評価の在り方や新学習指導要領に対応した授業力向上を目指す。	①評価と指導の一体化を目指し、授業のめあてや目標を明確にし、振り返りを工夫する。生徒の自己評価をもとに授業改善を行う。	B	・ 教：成果…10、現状…70、要改善…20 ・ 保：とてもよい…24.7、おおむねよい…58.4 あまりよくない…10.4、よくない…6.5 ・ 生徒アンケート「授業ごとに目標が示されている」は全体として肯定的な回答が多かった。 ・ 若手教員は改善や工夫できる部分が多い。	・ 目標の提示や振り返りなど生徒が自身の学習活動を充実させることができるよう、より明確な目標、学習活動の提示を行っていく。 ・ 若手教員が他の教員の授業を見学し、自身の取組に生かすことができるよう促していく。	B	・ 少しずつアンケート結果が良くなっているのは、先生方の力であると感じる。自信をもってもらってよいのではないかな。 ・ 若手教員が授業見学に行きやすい雰囲気であることは、とても素晴らしいことだと考える。このまま継続してほしい。 ・ 一人1台端末の利用は良い効果があると考えられる。今後は、生徒によって扱いやすい様式が異なるため、生徒にとっては、紙媒体との選択ができる形に落とし込めるとよい。 ・ デジタル教科書の普及に伴い、生徒の様子をよく観察し、より良い形を考えていく必要がある。
	学習習慣を確立させ、基礎・基本を確実に定着させる。	②都の授業改善推進拠点校研究を受け、授業を見直し「わかる」「できる」授業を目指す。授業と家庭学習に積極的に取り組む生徒を育てる。	①毎日の朝読書や家庭学習のための自学ノートなどを効果的に使い基礎学力の定着を図る。		・ 教：成果…10、現状…70、要改善…20 ・ 保：とてもよい…24.7、おおむねよい…54.5 あまりよくない…14.9、よくない…5.8 ・ 全体の流れは定着し、スムーズに取り組むことができた。 ・ 生徒への着実な取組につなげるための工夫が必要であり、保護者の回答でも約 21％は改善を求めている。	・ 学校としての取組であるので、今年度中に次年度の方向性について確認を行い、次年度、年度当初に職員全体で確認して学校全体の活動として充実を図ることができるようにする。 ・ 基礎学力の定着に向けて家庭学習への取組も支援し、主体的に学習に取り組もうとする姿勢を育むことができるようにする。		・ ノートの利活用が大切である。ノート指導で子供の可能性はいくらでも広がる。ぜひ子供の可能性を伸ばしていったほしい。 ・ 学校だけではなく、家庭との連携は必要である。一人1台端末の実施により、課題の提出率が上がってきているという効果がある。 ・ 学校では課題を認識し、改善しようと努力している様子がみられるため、生徒の学力向上に向けて様々な手段を講じていったほしい。 ・ 不登校生徒への学習支援について。一度遅れてしまうと、ついていけないのではないかと、不安になってしまう生徒がいるのでは。学校としても生徒個人によって接し方が変わってくところはあるが、少しでも生徒の不安がなくなるよう家庭と連携してやっていく。
2 社会性の育成	将来、社会に出たときに通用する常識・良識を身に付けさせる。	①常識・良識を基盤とした生徒同士の望ましい人間関係を築く力を育てる。	①挨拶の日常的指導に加え、生徒会中心の「挨拶運動」の推進によって、自ら進んで挨拶ができる生徒を増やす取組を継続する。 ②自治会活動等、地域行事に積極的に参加し、地域の一員としての自覚をもたせる。	B	・ 教：成果…25、現状…50、要改善…25 ・ 保：とてもよい…33.8、おおむねよい…54.5、あまりよくない…9.1、よくない…2.6 ① 挨拶運動を行う上では、一定数の成果が表れたと感じている。継続していくためには、より生徒が主体的に行うことができるようにしていく必要がある。 ② 自治会や地域行事への参加について、学校として組織的に働きかけていけるように。	① 教員が行う日常の指導に加えて、生徒自らが挨拶を行うことの大切さや必要性を考え、働きかけていく取組が必要である。生徒会を中心として、専門委員会の委員長や部活動の代表など生徒たちの自主的な活動が活発になるように指導していく。 ② 自治会や地域行事への参加については、学校として地域との関わり方を調整し、生徒会が中心となり、生徒に参加を働きかける。	A	・ これからは学校地域との交流を深めていきたい。 ・ 学校では、地域ボランティアについてどのように、PR しているか？→募集お知らせ配布、呼びかけ ・ 三中生は挨拶が良いので継続的に続いてほしい ・ 支会のスポーツイベント、お祭りボランティア大変助かっています。今後は企画から中学生にも参加していただくと嬉しい。 ・ 近隣の福祉施設との交流なども検討していただくと嬉しい。（生徒会など）
	善悪の判断をはじめ、規範意識を育む。	②自他を大切にす心を基盤とし、学校や地域に貢献できる生徒集団を育てる。	①毎月27日の「命の日」を交通ルールや自然災害を含め災害に対応する力を高めるための安全指導日とし、命を守る指導を充実させる。 ②母国日本を理解するため、ふるさと青梅、そして東京周辺、集大成として京都奈良を学ぶことにより、日本の伝統、文化、産業を学ぶ。		・ 教：成果…25、現状…62.5、要改善…12.5 ・ 保：とてもよい…37.7、おおむねよい…55.8、あまりよくない…3.2、よくない…3.2 ・ 教：成果…25、現状…75、要改善…0 ・ 保：とてもよい…35.7、おおむねよい…59.1、あまりよくない…3.2、よくない…1.9	・ 毎月27日を命の日として、安全指導を行った。指導内容は、交通ルールや自然災害、SNSに関する内容や校内での過ごし方などである。来年度は、命の日を制定するに至った、水難事故に特化した講演、指導を行うように調整する。 ・ 9割以上の教員・保護者から肯定的な意見を頂けているので、今後も継続していく。2学年の地域調査は学年の状況に応じて都内・鎌倉を選択できるようにする。		・ 自助、共助に關しての指導を引き続き継続していったほしい。 ・ 地域の防災活動にも中学生を参加させてほしい。 ・ 善悪の判断をきちんとつけられるようにすることも大切であるが、ダメなこととわかかっていても手をそめてしまうこともあるので、誘惑にのらないように自分をしっかりとつとめことの指導もしていったほしい。
3 豊かな心の育成	将来にわたり勇気と希望を胸に生き抜く力を育む。	①集団の中で自分を生かすことにより自己有用感を育てる。	自分たちの力でより良い集団づくりに取り組めるように、生徒会活動を充実させる。また、各自の目標を明確化させるため、キャリアパスポートを活用する。	B	・ 教：成果…0、現状…91.7、要改善…8.3 ・ 保：とてもよい…24.0、おおむねよい…62.3、あまりよくない…11.0、よくない…2.6	・ 生徒の前向きな感情は育っているので、生徒会活動では今後プランニング能力の育成に重点を置き、各活動が計画的に実施できるよう努める。 ・ 年度末を目安にキャリアパスポートを見返す授業を確保して、自己の成長を振り返れるようにする。	A	・ アンケートの結果を参照するのはもちろんだが、昨年度との比較も必要なのではないかな。 ・ キャリアパスポートを見返して、生徒が成長を見られる取り組みは良い。「懐かしいね」と思い出だけでなく、成長した部分を本人が肯定的に捉えられるようにしてもらいたい。
	人としての振る舞いができる人間性を育む。	②他者への感謝の気持ちをもてる生徒を育てる。	①部活動を通して、強い心と奉仕する心、感謝する心を育てる。 ②いじめを撲滅する心の育成を、道徳授業を含め、すべての教育活動に浸透させる。		・ 教：成果…16、現状…72、要改善…12 ・ 保：とてもよい…33.1、おおむねよい…53.2、あまりよくない…9.7、よくない…3.9 ・ 教：成果…8、現状…84、要改善…8 ・ 保：とてもよい…29.9、おおむねよい…56.5、あまりよくない…9.1、よくない…4.5	・ 部活動を通して、礼儀やあいさつなどの人格形成を引き続き、図っていききたい。 ・ いじめを許さない心の醸成をねらいとした授業や、その思いを言葉にする「誓いの木」の活動は今後も継続し、いじめの未然防止に努める。		・ ふるまいや挨拶はいいと思う。 ・ いじめ問題について、SNS等を介した精神的ないじめがなくならない。いじめ対策委員会の中で、共有しながら引き続き学校として対応していく必要がある。また、道徳の授業はどのように効果があるのか検証するのは難しいが、生徒の振り返りなどを見取りながら、効果（成果）が実感できるような授業を展開していったほしい。
	共生社会をより良き社会人として生きる力をつける。	③より広い視野で物事を見聞し、主体的に考えることのできる生徒を育てる。	①様々な職種について理解を深めるため、専門学校の先生やハローワークの方を講師に招き思いやり・勤労・責任を重んじる心を滋養する。 ②LGBT やグローバルな視点から、自分との差異を受容できる心を育てる取組を行う。今年度、LGBT に対応できる標準服を検証する。	B	・ 教：成果…8.3、現状…87.5、要改善…4.2 ・ 保：とてもよい…34.4、おおむねよい…57.8、あまりよくない…5.2、よくない…2.6 ・ 教：成果…8.7、現状…78.3、要改善…13 ・ 保：とてもよい…36.4、おおむねよい…55.8、あまりよくない…4.5、よくない…3.2	・ 今年度は大川学園の先生を招き、上級学校についての講義や介護体験を行った。職場体験についても地域の協力を得ながら充実した活動となった。今後は授業時数と調整しながら、外部と連携をとり効果的な授業が実施できるよう計画していく。 ・ 今年度から新しい標準服となり、目立つ問題はない。次年度も引き続き移行期間とする。	A	・ 同じ内容のことで、先生方から話を聞くのと、専門の方々から話を聞くのとでは、生徒の感じ方も違う。いい経験にもなるし大事なことだと思うので、今後も継続してほしい。さらにいろいろな場面で、地域の方などをうまく活用して連携していけるとよい。
4 特別支援教育	個を尊重し、一人ひとりを大切に考えた教育的支援を実践する。	①教育相談的な取組の推進を図り、特別支援を必要とする生徒への支援を実施する。	①2名配置されたSCを効果的に活用し、1年生全員の面接を実施するとともに、SCとの連携の下で生徒理解に基づいた教育を進める。 ②交流面談や外部機関と連携したアンケートを活用し、個々の生徒理解に努める。	B	・ 教：成果…30.8、現状…65.4、要改善…3.8 ・ 保：とてもよい…31.8、おおむねよい…61.7、あまりよくない…3.2、よくない…3.2 ・ 教：成果…23.1、現状…76.9、要改善…0 ・ 保：とてもよい…29.9、おおむねよい…59.1、あまりよくない…7.1、よくない…3.9	① 1年生の全員面談については、実施することができたが、9月までかかってしまったので効率的に進めていきたい。また、3年生向けに講演をしてもらうなどSCの活用についても検討したい。 ② 外部機関や外部人材を活用して、生徒理解の推進を図っていききたい。	B	・ 特別な支援を要する生徒や多様な考え方にある時代において、生徒理解の推進や個への対応など教職員で連携をして対応してほしい。 ・ 引き続き、外部機関や外部人材を活用して、生徒理解の推進を図ってほしい。 ・ SCの活用について、より有効的な方法を検討してもらいたい。
	保護者・地域の信頼を得る。	①開かれた学校を目指し、説明責任や危機管理意識を高め、信頼される学校を目指す。	①HP、学校だより、学年だより、学級だより、mail等、学校情報を発信し、保護者・地域と情報を共有する。		・ 教：成果…16、現状…80、要改善…4 ・ 保：とてもよい…31.2、おおむねよい…55.8、あまりよくない…9.1、よくない…3.9 ・ 学校だよりや学年だより、必要に応じて安心メールで連絡を行ったことで、全体として肯定的な回答が多かった。 ・ ホームページの更新についての言及が保護者からあった。	・ 市の方針でHPが更新されたので、今後活用方法について検討し、個人情報等に留意しながら活用を図っていく。 ・ 今後も丁寧な情報共有を心がけることで、保護者が安心して生徒を通わせることができるような学校運営を心がけていく。	A	・ ホームページについて、個人情報のことや、著作権のこと、様々な思いや考えの方がいらっしやるのがよく分かった。 ・ 校外学習の様子をメール配信することで、家庭内でのコミュニケーションを深められると感じた。 ・ 生活指導のみならず特別支援や不登校、多くの対応を今後も丁寧に対応していったきたい。
5 その他の重点			②日頃から、事前に危険を察知し、先回りして教職員の危機管理意識を高める指導をしたり、丁寧な対応を心がけさせたりすることで保護者・地域の信頼を得る。	B	・ 教：成果…12、現状…84、要改善…4 ・ 保：とてもよい…27.9、おおむねよい…59.7、あまりよくない…7.1、よくない…5.2 ・ 避難訓練や安全指導を計画的に取り組むことができたことやいじめを含む各種研修を計画的に行ったため、全体として肯定的な回答が多かった。 ・ 生徒指導等で保護者や地域との理解のすれ違いもあった。	・ 今後も保護者・地域をはじめ、校外の機関とも協力して生徒の育成を行っていくことができるよう、丁寧な情報発信や情報共有に努め、保護者や地域の信頼を得ることができるようにする。		